

長野県でのカワウ繁殖抑制の取組み

熊川 真二(長野水試佐久支場)

【調査目的】 カワウはアユ、ウグイなどの漁業権魚種を食害して深刻な漁業被害をもたらすが、いったん入り込んだ流域から簡単に排除することは難しい。近年、カワウを単に銃で駆除したり追い払うという従来の方法に代わり、繁殖期に行う卵管理によって繁殖を抑制する試みが全国数箇所で行われている。ここでは、カワウによる漁業被害防除の一助とするため、佐久地域の千曲川流域のコロニーで行った擬卵交換による繁殖抑制の効果について報告する。

【被害の内容】 具体的な魚食被害量は算定できていないが、千曲川本川や支流の湯川などで集団策餌行動が観察されている。

【調査場所】 東京電力・杉ノ木貯水池(佐久市今井)及び湯川ダム湖(北佐久郡御代田町草越)



東京電力・杉ノ木貯水池

【カワウの営巣・個体数変化】 杉ノ木コロニーにおけるカワウ個体数は、初飛来した平成14年2月には数羽だったが、平成15年3月に約20羽、平成16年3月には約50羽と増加している。営巣は平成15年春に始まり、この年は6巣が確認された。カワウは人工的に設けられた浮島のヤナギの低木または草上で営巣活動を行っている。



営巣のようす



作業の様子

【調査方法】 杉ノ木コロニー 浮島にボートで接近して巣から卵を採取し、同数の擬卵(石膏製)に交換して回る作業を、新たな産卵行動が認められなくなるまで繰り返した。一繁殖期間中にコロニー内に立入った回数と時間は、平成16年が7回(3月24日～6月16日、2週間毎)、平成17年が5回(3月23日～6月14日、3週間毎)で、いずれも1～2時間である。作業は佐久漁業協同組合が実施主体となり、日本野鳥の会(軽井沢支部)などの協力のもとに行った。

湯川コロニー 平成17年4月に杉ノ木コロニーの北東10.5kmの湯川ダム湖で発見されたコロニーで、カワウは湖畔林の樹上(>5m上)で営巣を行っていた。4月28日、ボート上から棒による巣落としと擬卵交換を行った。

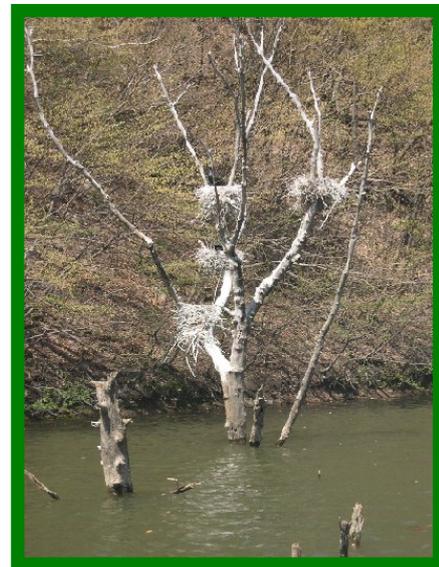
【調査結果】 杉ノ木コロニー 平成16年の営巣数は15巣で、高い位置にあって卵の採取ができなかった1巣を除き、14巣に対して計69個の擬卵交換を行った。初回は13巣から49個の卵を採取して擬卵に交換した(1巣当たり3～5個、平均3.8個)。2回目以降には新しい巣が1巣形成されたほか、擬卵を棄却して卵を産み直した巣が3巣、卵を産み足した巣が1巣確認されたので、さらに4回にわたり20個の擬卵を投入して卵管理を継続した。最終的に、擬卵交換できた14の巣についてはカワウの繁殖を100%抑制することができた。

平成17年は同様に13巣に対して計48個の擬卵交換を行った。卵の交換ミスから1羽の巣立ちは許したが、平成16年の4羽に続いてカワウの個体数増加を最小レベルに抑え込むことができた。

湯川コロニー 湖畔6ヶ所で27の営巣が確認された。2巣では擬卵交換を行い、他の25巣は撤去(卵及び雛の採取を含む)したが、その後の観察で繁殖は確認されていない。採取した雛(27～208g)の胃からはウグイ、オイカワの断片が検出された。

杉ノ木コロニーの個体数変化 平成16年の繁殖期間中の個体数は常に50～60羽の範囲内で、擬卵交換にともなう7回にわたる人の立入りがあっても、コロニーが分散することはなかった。

一方、平成17年においては調査を開始した当初は約50羽の個体数を維持していたが、初回の擬卵交換を行った後、10～20羽に激減した。その後、個体数は増加に転じ、調査終了時には元の個体数規模に戻ったが、これらの個体数増減は、湯川コロニーに50～60羽のカワウが集結して営巣行動を始め、巣を撤去された後に個体数が10～20羽に減少していったのと呼応している。これらのことから、2年目の繁殖抑制では擬卵交換作業にともなう人為的攪乱によってコロニーの分散が起きた可能性が強い。



湯川コロニーのようす

【現時点での評価及び考察】

擬卵交換はカワウの繁殖抑制に有効であり、流域に生息するカワウの個体を増やさない対策として利用できる。ただし、人為的攪乱の影響により、繁殖抑制を試みたコロニーが他の地域に移動したり、群れが分散してしまう危険性が2年目の結果から示唆されたので、3年目の擬卵交換にあたっては人為的攪乱の影響を考慮して慎重に対応する必要がある。実験を行っているコロニーは他の地域に比べると極小コロニーである。他の流域で見られるような大きなカワウの集団は周辺地域に見つかっていないことから、長期的に繁殖抑制を継続し、新規個体の増加を抑制し続け

ることで、この流域からのカワウ排除に結びつけたいと考えている。

【調査結果公表のしくみ】

水産だより No.24.(長野県水産試験場・長野県農政部園芸特産課,2005.1)、広報ないすいめん No.40(全国内水面漁業協同組合連合会,2005.4)に発表している。